

## 令和2年度 項目別の自己評価表

### 1. 学校の教育目標

キャリア教育・職業教育と人間性の涵養に努め、一人一人の自立を目指す。

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

自立した人間性を育成し意識の向上につとめ、自らの考えを提案できる機会を作り自主性を高められるよう、取り組みを行う。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 創学の精神「自立」と「清く・正しく・美しく」の教育理念は実行されているか	4	3	2	1
・ 職業とキャリアを重視した教育がなされているか	4	3	2	1
・ 専修学校が社会に於ける役割を認識しニーズに応える学校づくりに努めているか	4	3	2	1
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
・ 専門教科に重点を置き、併せて一般教科・特別教育活動をして専門業界の即戦力となる人材の育成に努めているか	4	3	2	1

#### ① 成果と課題

成果として、昨年度課題として挙がっていたキャリア教育の改善方策が功を奏し、在校生アンケートの結果が向上した。卒業学年以外の学生も、早い段階から将来のキャリア形成を行っていることがアンケートからも汲み取れる。

課題としては、成長を実感できる場が少なかったことが挙げられる。昨年度に比べ、予定されていたイベント等の自粛や中止なども多く、学生達の発表の場が少なかった。しかし内部イベントとしては学園祭や卒業ファッションショーなど、場所や種々の工夫を行い、実施することが出来た。

#### ② 今後の改善方策

発表する場が少なかったのは世情もあるため、情勢を無視して行事等を執り行うことはせず、オンラインの活用など柔軟な対応をしていく。どんな形であれ発表の場を設けることで、学生達に自信をつけさせ、またキャリア教育の一助とする。

#### (2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 校務分掌役割の確認と責任の遂行はなされているか	4	3	2	1
・ 事業計画を綿密に立て、共通理解で運営されているか	4	3	2	1
・ 運営組織や意思決定機能は毎朝の職員会議等で諮られて納得して十分機能しているか	4	3	2	1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2	1
・ 業界や地域社会と密接な信頼関係が確立されているか	4	3	2	1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1

### ① 成果と課題

成果として、ライン公式アカウントの開設、InstagramやTwitterの更新などで、学校行事の変更の連絡など情報公開に大いに活用することが出来た。卒業ファッションショーでは、日程の変更連絡などにSNSを活用しただけではなく、来場予約のフォームを設置することで、来場者の把握、分析、人数の管理などに役立てることが出来た。また、校務分掌に関しては分掌の重複を減らす、校務の効率化が昨年度の課題かつ改善方策として挙げられていたが、それに加えて教員間の連絡を密にすることで改善が図られた。地域的な関係性としては接点が減ってしまったものの、業界との連絡は前年度以上に密度が濃かったと思われる。

課題としては、新型コロナウイルスの感染拡大防止や地震の影響などで、場所や日程等、社会情勢に応じた変更を強いられることが多かった。

### ② 今後の改善方策

改善の方法としては、今後とも十二分にあり得る事柄であるため、教職員間の情報収集・情報共有を密にし、状況に応じて職員会議を持つことにより、早急の対策を試みる。また、校務分掌に関しては今後備えて職務の整理を行い、マニュアル作成や連絡の密度増加などによって校務に取り組みやすい素地づくりに取り組んでいく。地域社会との関わりとして、情報収集と校風と教育理念に合った関わり方を模索していくべきである。

### (3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
・ 業界のニーズに十分応えるレベルに到達する教育と時間の配分が明確にされているか	4	3	2	1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携事業）は体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
・ 授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
・ 人材育成目標達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1

### ① 成果と課題

成果として、昨年度課題として挙がっていた天災時に於いて適切な対応を行ったことが挙げられる。カリキュラムを滞りなく終えることが出来たのに加え、全校でのWi-Fiの設置、パソコンやタブレットの台数増加など、遠隔授業に対応できる設備を整えたため、徐々にオンライン授業への移行が行えたためである。オンライン授業を行ったことにより、理論面の増強に加え、検定対策面でも大きな進歩となった。

課題としては、(1)教育理念・目標でも言及しているように、産学連携の外部イベントが行えなかったことである。

② 今後の改善方策

改善方策としては、外部イベントも徐々にオンライン化や感染対策を実施した上での開催などが増えてきているため、状況に合わせて産学連携を行っていく。遠隔授業のために整えた設備の活用も検討する。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
・ 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍や卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 成果と課題

まず成果として、就職率の大幅な改善がある。昨年度も一昨年度に比べて大幅に向上したものの、今年度は就職した人数のみならず、就職先も九割近くが服飾関係の進路である。前年度より力を入れているキャリア教育の意識が身についたことに加え、学生達の世情に負けないよう就職活動を行った努力の結果だと考える。

課題としては、昨年度同様に資格取得率の低下が挙げられる。これに関しては資格試験自体がコロナウイルスの影響で中止になったものがあったこと、更には日程延期によって他の資格試験と日程が近くなってしまったことなどの理由がある。

② 今後の改善方策

改善方策としては、資格試験に臨む学生の意欲面への働きかけと、遠隔授業設備の構築を活かした受験対策が挙げられる。オンラインでの検定対策を行っていくことで、資格試験の開催日の減少があっても取得率の向上を図る。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 進路・就職に関する指導・支援は行われているか	4	3	2	1
・ 学生相談に関する体制が整備されているか	4	3	2	1
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 保護者会と適切に連携しているか	4	3	2	1
・ 卒業生へのニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1

・ 中学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1
----------------------------------------------	---	---	---	---

① 成果と課題

成果としては就職率の向上、それに伴う支援体制の増強がある。昨年度に引き続いての「自己分析」「求人情報の解析」に加え、教養学の一部に組み込まれた就職活動の分野の強化、また教職員研修にも就職活動指導の研修があったことにより、支援制度が充実した。

課題としては、在校生アンケートから、就職活動の情報収集に対する不安がやや目立ったことが挙げられる。

② 今後の改善方策

就職活動に於ける情報収集は、今現在、色んなツールでの情報が溢れているのが要因でもある。情報の取捨選択に対して、学校側で信頼できる情報源を明示し、指導を行っていく。また、キャリア形成計画については今後全学年に於いてさらに強化していきたい部分である。来年度はジョブ・カードの導入を検討し、就職活動の一助としたい。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては施設・設備の充実が挙げられる。前述にあるようにWi-Fi環境の整備、パソコンやタブレットの充実の他、手洗い場の蛇口をセンサー式にするなど、今年度は設備環境を改善した。また、インターンシップなどに於いても、今年度は難しい状況であったにもかかわらず連携企業には快諾していただき、教育体制も整っていた。

② 今後の改善方策

今後更なる上進を目指す分野としては設備・機器の導入である。学生達のアンケートや、連携企業などからもニーズを汲み取り、それに合った機器の導入なども今後検討していく。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が積極的に行われているか	4	3	2	1
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
・ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報や教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては、資料請求の増加がある。コロナウイルス感染拡大防止のため学校訪問が難しくか

った代わりに、新年度になったタイミングで資料請求のあった東北地方の各高等学校宛に新しくなったパンフレットを直接送付するなどの対応を行った。また、リクルートスタディサプリ進路でも、オープンキャンパスストーリーズという動画企画、更には在校生企画など、今までなかなか外部に発信することが出来なかった学校生活のリアルや、実際に在籍している人が見えることによって資料請求増加や魅力の宣伝につながった。

課題としては、来年度の新入生獲得、様々なSNSの活用が挙げられる。

## ② 今後の改善方策

来年度は高等課程からの進学者が多く、外部からの入学者は同等程度である。外部入学者を増やすため、資料請求から来校に至るまでのハードルを低下させ、来校させることに注力していく。具体的な計画としては、資料請求から来校までの間にライン公式アカウント、Instagram、Twitterなどで情報発信し、SNS上でも進路相談などを受け付けることで、来校しやすい素地づくりを目指す。また、各種SNSの特性を吟味し、紙媒体での働きかけも効果的にやっていくことで、来校率の向上、更には出願率の向上を試みる。

## (8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

### ① 成果と課題

事業内容等も含めた財務情報について最新の情報公開を行う。

### ② 今後の改善方策

解り易い財務の情報公開を行い、安心して入学、学修する資料とする。

## (9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行い、自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

### ① 成果と課題

自己評価等の実施を積極的に行い、改善点を明確にしていく

### ② 今後の改善方策

自己評価結果に基づいて、改善し最新の情報公開を行う。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 学友会のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 成果と課題

成果としては、中学校向けの出前講座がある。毎年福島県専修学校各種学校連合会が行っている出前講座で、今まで小学校がメイン層だったところに、世情によって職場体験が行えなかった中学校からの依頼が増加し、公開講座が前年度よりも広く行われた。

② 今後の改善方策

今後の方策としては、来年度も出前講座に参加し、中学生にもより進路選択に興味を持ちやすい題材の選択、解りやすい授業内容を目指していく。

(11) 国際交流（必要に応じて）

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 留学生の受入れ・派遣に積極的に取り組んでいるか	4	3	2	1

① 成果と課題

課題として、前年度に引き続き留学生の受け入れ、また留学生としての派遣が今年度なかったことが挙げられる。

② 今後の改善方策

積極的に多言語での情報発信に取り組み、留学生としての派遣なども検討する。また、留学の目的をしっかりとって経済的にも不安なく学べる人材を受け入れる努力をする。